H30地域協働研究（ステージⅡ）

H30-Ⅱ-02「中心市街地活性化に向けた持続可能な市民連携活動に関する実践研究」

研究提案者：宮古市企画部復興推進課
研究代表者：盛岡短期大学部　内田信平
研究関与者（パートナー）：北原啓司（弘前大学教育学部）
研究チーム員：岩間健（宮古市企画部復興推進課）

＜要旨＞

本研究では、宮古市の中心市街地の活性化を目指して、平成30年度に「まちづくり市民会議season4（第4期）」、令和元年度（平成31年度）に「まちづくり市民会議season5（第5期）」の活動を実施した。いずれの年も、春から夏までの間に市民参加のワークショップを実施し、宮古市中心市街地活性化のためのアイディアを実現するための作業を行った。平成30年は11月に、令和元年は10月に、自分たちが考えたアイディアを実践するイベント「みやこわくわくストリート」を開催、多くの市民の方々に参加していただいた。

平成30年度、令和元年度は、これまでの市民による活動の蓄積を生かしながら、その拡大と安定的な継続を目指し、「さらなる連携の拡大」と「エリア全体での地域資源の活用」をテーマとして活動した。その結果、これまでの活動で徐々に関係をつくってきた市民（NPO、グループ）との連携の拡大を実現できた一方、商店街の事業者との連携については部分的なものにとどまった。また、供用開始された中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」の活用により、同施設が新たな賑わいの核となりうる可能性が示唆された。令和元年度には、宮古市都市計画課による市道末広町線整備（道路の美装化や電線類の地中化など）に向けた社会実験（交通規制）期間内にイベントを開催し、新たに生み出された歩行者スペースの活用の可能性を確かめるための試みも実施、今後の整備へ活かすための情報を得ることができた。

1　研究の概要（背景・目的等）

宮古市では、中心市街地拠点施設と市庁舎跡地の整備に際し、これまで3ヵ年実施した地域協働研究により、「中心市街地活性化」と「市民参画」をキーワードとして基本的議論や実践を試みるなかで、市民が当事者となりまちづくりに関わる＝「まちを育てる」という意識が芽生えてきた。

本研究では、これまでの市民による活動の蓄積を生かしながら、その拡大と安定的な継続を目指し、「さらなる連携の拡大」と「エリア全体での地域資源の活用」を目的とする。

2　研究の内容（方法・経過等）

これまでの活動のベースである「まちづくり市民会議」に加え、さらなる連携の輪を拡げる。このグループを核として、①「賑わい創出」に向けた企画の立案（ワークショップ）、②実証活動の実施、③検証と課題の整理、④活動を安定的に継続するためのしくみの構築（＝実装）、を行う。並行して、賑わいの場の核となる可能性を秘めた地域資源を対象として、歴史や活用可能性等の基礎的調査を行い、エリア全体としての活性化への有効性を検討する。

［平成30年度の活動］

平成30年度は、「まちづくり市民会議season4」メンバーによる市民ワークショップを4回実施、そこで育んだアイディアを実現する場として「みやこわくわくストリート2018」を開催した。その後、振り返りのワークショップを実施した。各回の実施内容を示す。

（1）第1回市民ワークショップ

平成30年6月16日（土）市役所分庁舎　参加者39名

先ずは、第3期までの活動の振り返りを実施。次に、グループに分かれて「まち歩き」を実施し、昨年利用したスペースや、今期の活動で活用が期待できそうな旧家の蔵などを実際に見て確認した。

後半は、グループごとに「まち歩き」の感想や、感じた課題、賑わいを生み出すアイディアなどについて自由に意見交換を行った。最後に、各グループから発表し、参加者全員で共有した。

第1回ワークショップを実施した後、示された意見を基に、以下の4つのプロジェクトを設定した。次回以降はこれらのプロジェクトごとにグループをつくり、ワークショップを進めることとした。

・プロジェクトA：アクティビティ系の活動を目指す
・プロジェクトB：多世代が交流できる活動を目指す
・プロジェクトC：まちなかでの交流を生み出すことを目指す
・プロジェクトM：まちなかでのアート、ハンドメイド、音楽等を楽しむことを目指す（「まんなかマルシェ」のこれまでの活動をベースとした内容）

（2）第2回市民ワークショップ

平成30年7月21日（土）市役所分庁舎　参加者45名

上記の4つのプロジェクトごとにグループを設定、参加者には、そのうちの希望するグループに参加してもらうこととした。そして、グループごとに、何をやりたいか、実行する場所、解決すべき課題などについて、自由に話し合いを行った。その後、結果を発表し、参加者全員で共有した。

（3）第3回市民ワークショップ

平成30年8月18日（土）市役所分庁舎　参加者35名

4つのグループごとに、プロジェクトの実現に向けて、実施内容や準備物などについて、話し合いを行った。その後、結果を発表し、参加者全員で共有した。

（4）第4回市民ワークショップ

平成30年10月13日（土）イーストピアみやこ　参加者32名

プロジェクトごとに、当日の実施内容の最終的な確認や準備を行った。その後、各グループから報告を行い、全員で共有。プロジェクトごとに連携する企画について確認する機会となった。

（5）みやこ・わくわくストリート2018

11月23日（金・祝）と24日（土）の2日間、「イーストピアみやこ」から、末広町商店街などの中心市街地エリアを舞台として、これまでのワークショップで育んだアイディアを実践する場「みやこ・わくわくストリート2018」を開催した。当日はおだやかな好天に恵まれ、多くの市民の方々に参加していただくことができた。また、伝統的な商家「東屋」を映画等の文化芸術活動に活用しているシネマ・デ・アエルプロジェクトとも連携。同プロジェクトによる、映画「0円キッチン」「妻への家路」の上映も同日に開催され、こちらにも多くの市民の方々が鑑賞に訪れた。

まちなかのあちこちの「空間」や、完成したばかりの「イーストピアみやこ」が、生き生きとした活動の「場所」となる様子を目の当たりにした1日となった。

当日実施した各プロジェクトの概要を以下に示す。

■アクティ部ひろば

23日に、イーストピアみやこの運動スタジオで「シニアいきいき体操」を開催。24日はイーストピアみやこの交流プラザで「アクティ部キッズひろば」を開催。スラックラインやボルダリングのほか、各種の体を動かす遊びの場を準備。多くの子どもたちが訪れ、楽しくチャレンジしていた。

■宮古感プロジェクト

末広町の店舗2階の空きスペースで、大判カルタでの「宮古弁カルタ大会」を開催。同じ会場では「懐かしの宮古の店こ屋さん」イラストも展示。また、店舗前のスペースでは餅つきを開催。子どもたちだけではなく、一緒に来ていたご家族の皆さんにも楽しく過ごしていただいた。

■コチラ、みやっこ特捜部！…みやっこレンジャーを探せ！

末広町商店街エリアを舞台として「こちら、みやっこ特捜部！」と題したスタンプラリーを実施。多くの子どもたちが参加した。

■チームM presentsランプシェード作り体験

イーストピアみやこの創作スタジオでは「ランプシェード作り体験」を開催。画用紙を用いたオリジナル作品の制作を体験した。

（6）ふり返りワークショップ

平成30年12月15日（土）イーストピアみやこ　参加者38名

「みやこ・わくわくストリート2018」の振り返りと位置づけて実施。プロジェクトごとに、良かった点や課題についてまとめ、発表した。

良かった点としては、広い年代の方々に来場してもらい楽しんでもらうことができたこと、世代間交流が実現できたこと、イーストピアみやこの市民スペースを活用できたことなどの意見が挙げられた。一方、課題としては、商店街への周知・協力依頼の遅れや、告知のしかた、若い世代の参加が少なかったことなどが挙げられた。

最後に、宮古市の山本市長、桐田副市長、岩手県立大学の植田先生、宮古短大部の松田先生からコメントをいただき、「まちづくり市民会議season4」の活動は終了となった。

［令和元年度（平成31年度）の活動］

令和元年度（平成31年度）は、「まちづくり市民会議season5」メンバーによる市民ワークショップを5回実施、そこで育んだアイディアを実現する場として「みやこわくわくストリート2019」を開催した。その後、振り返りのワークショップを実施した。各回の実施内容を示す。

（1）第1回市民ワークショップ

令和元年5月25日（土）イーストピアみやこ　参加者32名

先ずは、第4期までの活動の振り返りを実施。また、内田より、検討中の末広町通りの整備計画の概要を紹介。今年の「わくわくストリート」開催に合わせて、車が走行できる部分を一時的に制限する社会実験を行う予定で、広くなった歩行者ゾーンを利用するアイディアを考えてほしいと伝えた。

引き続き、弘前大学の北原啓司先生による「“まち育て”のススメ」と題した基調講演。その後、グループに分かれて、「まちなかでこんなふうに過ごしたい」という視点で、自由に意見交換を行った。

（2）第2回市民ワークショップ

令和元年6月22日（土）イーストピアみやこ　参加者38名

グループごとに、末広町通りエリアで「まち歩き」を実施。気が付いたことや、見えてきた課題を解決するためのアイディアなどについて、自由に意見交換した。

その後、チームごとに話し合った結果を発表し、参加者全員で共有。「空き店舗や空き地（駐車場）が多い」「情報発信やPRが不十分」「人が安心して歩けない」といったことが課題として挙げられた。

その後、示された意見を基に、以下の4つのプロジェクトを設定した。次回以降はこれらのプロジェクトごとにグループをつくり、ワークショップを進めることとした。

・プロジェクトA：末広町通りの社会実験によって新たに生み出された歩行者スペースの活用
・プロジェクトB：商店街の空きスペースの活用
・プロジェクトC：駐車場等の屋外のスペースの活用
・プロジェクトR：それぞれのプロジェクトをつなげる企画や商店街と連携した企画の実施

（3）第3回市民ワークショップ

令和元年7月20日（土）イーストピアみやこ　参加者32名

上記の4つのプロジェクトごとにグループを設定、参加者には、そのうちの希望するグループに参加してもらうこととした。そして、グループごとに、取り組みのアイディアについて、自由に意見交換を行った。その後、結果を発表し、参加者全員で共有した。

（4）第4回市民ワークショップ

令和元年8月24日（土）イーストピアみやこ　参加者38名

4つのグループごとに、プロジェクトの実現に向けて、実施内容や準備物などについて意見交換を実施。今期の「わくわくストリート」のメイン会場となる末広町通りの模型を準備し、その模型を用いて、各プロジェクトの実施場所の確認や、連携のしかたなどについても話し合った。

（5）第5回市民ワークショップ

令和元年9月28日（土）イーストピアみやこ　参加者30名

「みやこ・わくわくストリート2019」に向けて、メンバー全員で集まることができる最後の機会。プロジェクトごとに、当日の実施内容の最終的な確認を行った。その後、参加者全員で共有し、プロジェクトごとで連携する企画について、確認する機会となった。

（6）みやこ・わくわくストリート2019

10月27日（日）、末広町商店街各所のエリアを舞台として、これまでのワークショップで育んだアイディアを実践する場「みやこ・わくわくストリート2019」を開催した。前日まで大雨による避難勧告が出されるなど、開催可否の判断が難しかったが、幸い当日はおだやかな好天に恵まれ、多くの市民の方々に参加していただくことができた。

当日実施した各プロジェクトの概要を以下に示す。

■ハロウィン！アクティ部キッズプレイパーク

商店街の駐車場スペースを会場として、子ども向けのプレイパークを開催。スラックラインなどで、多くの子どもたちが、思いっきり体を動かした。また、ハロウィン企画として、カボチャのお化けをやっつける「ハロウィンゴーストハンター」を開催、子どもたちの人気を集めた。

■末広じぇねれぃしょんパーク

商店街のフリースペース「りあす亭」を会場として、懐かしの地図とイラストによる「昭和のみやこまちクイズ」を開催。多くの方が昔の思い出を語り合っていた。また、自分だけのハーバリウムボールペンをつくるワークショップを開催、予想以上に多くの方々に参加していただいた。

■社会実験によって生み出された歩行者スペースの活用

今シーズンの「わくわくストリート」は、今後の末広町通りの整備のための社会実験による交通規制の実施期間中に開催された。車が走行できる部分の幅を狭くしてスラローム形状とすることで、歩行者のためのスペースが新たに生み出された。そのスペースの活用の可能性を確かめるための試みとして、テーブルとイスを設置し、「ボードゲームコーナー」と「お休み処」として準備した。また、統一されたデザインのフラッグとポスターにより、賑わい感を演出し、来訪者や商店街関係者にも好評であった。

■わくわくハロウィンワードラリー

各イベントを結ぶ企画として「わくわくハロウィンワードラリー」を実施。多くの子どもたちが参加し、景品配布場所では長い行列ができるほどであった。

（7）ふり返りワークショップ

令和元年11月16日（土）イーストピアみやこ　参加者24名

「みやこ・わくわくストリート2019」の振り返りと位置づけて実施。プロジェクトごとに振り返りを行った。

良かった点としては、多くの集客があったこと、歩行者スペースの活用ができたことなどが挙げられた。一方、課題としては、混雑時の対応不足などが挙げられた。

3　これまで得られた研究の成果

［平成30年度］

30年度の地域協働研究では、過去3期の活動に「連携の拡大」と「地域資源の活用」という視点を加えて取り組んだ。「みやこ・わくわくストリート2018」では、平成30年10月に供用が開始された中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」を市民による活動の場として活用することができ、同施設が新たな賑わいの核となりうる可能性が示唆された。

その一方、商店街の事業者等との連携については不十分な内容にとどまり、今後の課題として認識された。また、「まんなかマルシェ」実行委員会との連携が一つのテーマであったが、各々が方向性を探る中で、共通の認識をつくることが難しい面も認められた。

［令和元年度（平成31年度）］

平成30年度より、宮古市中心部のメインの商店街である末広町通り（市道末広町線）を、歩車共存道路として新たに整備するための計画の策定作業が始まった。そこで、令和元年度（平成31年度）の地域協働研究では、この末広町通りをメインの舞台として取り組んだ。「みやこ・わくわくストリート2019」は、宮古市都市計画課による社会実験（交通規制）期間内に開催し、新たに生み出された歩行者スペースの活用の可能性を確かめるための試みも実施、今後の整備へ活かすための情報を得ることができた。

その一方で、商店街の事業者等と共通認識を持つことの困難さなど、さらに改善が必要と感じられる部分もあった。また、当初の狙いであった「市街地が「稼ぐ」という視点での活動」という面では、不十分であった。

4　今後の具体的な展開

今年で、東日本大震災の発生から9年となった。平成30年には、中心市街地拠点施設「イーストピアみやこ」が供用開始となった。これまでの5期にわたる「まちづくり市民会議」の活動を通し、参加メンバーの中から、徐々にではあるが、地域のリーダーとなりうる人材が育ってきていると考える。今後は、岩手県立大学や宮古市が企画の中心になるのではなく、このようなリーダー的立場の市民の方々が中心となって、活動を継続していく必要があると考える。既に、イーストピアみやこでのクリスマスイベントや、商店街でのひな祭りイベントは、このような市民の方々が中心となって開催されるようになっている。今後は、市民が主役となり、県立大学はバックアップする側にまわり、このような活動の安定的な継続に寄与していきたいと思う。

5　謝辞

市民ワークショップに参加していただいた「まちづくり市民会議season4・5」メンバーの皆様、および協力していただいた関係者の皆様に、深く感謝申し上げます。